

絆通信

56号

税理士法人 コモンズ

〒540-0038 大阪市中央区内淡路町 3-2-15-403

TEL (06)6224-3050・FAX(06)6224-3055



平成 23 年7月

なでしこの快挙

踏まれてもへこたれない、自生の強さを持つなでしこに名ぞらえられた「なでしこジャパン」のイレブンが世界一になったニュースは、多くの人々の胸に希望とやればできるという自信を私達に与えてくれました。

第6回サッカー女子ワールドカップドイツ大会決勝戦で、体格とパワーで勝る世界ランク第1位のアメリカを日本の女子代表が下し、初優勝を果たしました。東日本大震災後の特別な大会で見たなでしこジャパンの「折れない心」に日本のみならず世界中に感動の輪が広がりました。

「日本チームは母国に劇的な勝利と喜びをもたらした」(英国)、「アジアの歴史を作った」(中国)など世界中のマスメディアも心より称賛しています。

今回の決勝戦を前にドイツ各地で飼育されているタコが7月15日の決勝戦について「予言」したところ、参加7匹のうち4匹が日本の勝利を選んでいました。関係者は日本とアメリカの戦いは大接戦の可能性を示唆していました。このタコの予言がま

さに的中して大接戦のうえ日本が優勝したのです。タコの予言能力は私にはよくわかりませんが、何となく神秘を感じさせる出来事だと思いました。

また、「どんな困難なことでも努力で乗り切れると勇気づけられた。福島はまだまだ大変だが、この危機を乗り越えられるよう頑張りたい」という福島原発事故の被災者の方の声をテレビで見ました。本当に久々の明るいニュースであり勇気と希望がわいてきました。

ちなみに、なでしこの花言葉は、「純愛」「大胆」「勇敢」「野心」等です。

トイレの神様

大震災以後、絆と濃密な人間関係が求められています。「絆」という言葉がよくつかわれるようになりました。私どもの税理士事務所が「絆通信」を発行したのは5年前です。大震災がくるなんて当然ですがわかりませんでした。しかし、5年前に事務所の職員皆で「絆」を大切にする事務所を作ると決心したのです。

植村花菜さんが歌う「トイレの神様」が



ヒットし、若者の間で広まっています。亡くなった祖母との思い出、感謝を綴った歌ですが、ヒットの背景には、若者が「家族の絆」の大切さに気づき、自分自身を真剣に考え始めたことがあります。

「トイレの神様」の歌詞の中に「・・・トイレには それはそれはキレイな神様が いるんやで だから毎日キレイにしたら 女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで その日から私は トイレをピカピカにし始めた べっぴんさんに絶対なりたくて 毎日磨いていた・・・」

トイレには商売繁盛・家内安全・企業繁盛・健体康心をもたらすありがたい福の神が住んでおられます。そのなによりの証拠に著名な神社仏閣、繁盛している会社、幸せな家庭のトイレは必ずピッカピカに清掃されています。トイレには「ありがとう」の福の神が住んでおられるのです。皆様の会社やお店のトイレはいかがですか。福の神が住んでおられますか。

私たちは、税理士事務所の原理・本質を考えると、必ず「ありがたい」という気持ちが出てきて、あらゆるものに感謝し、感動し、感激するようになるまで議論を続けます。感謝・感動・感激という三つの現象は、「三感現象」と呼ばれています。

不況とはいえ、全くモノやサービスが売れなくなったわけでもなく、注文がまったく途絶えたわけでもありません。考えてみれば、それはお客様のご愛顧や、取引先の応援や、社員の働きなど、実に多くの方々の力によって助けていただいているお陰だ

ということが分かってくるものです。

震災後、売上も利益も減少し、資金繰りも大変です。今の苦しい事実ばかりを語ってみても仕方がないことです。事実を分析し対策を考えることです。いま必要なのは夢や目標やロマンを語っていくことです。小さなことでも「感謝・感動・感激」の三感現象を発揮しましょう。そうなったら必ず会社はよくなります。お客様が感応していただけるのです。お店に多くのお客様が足を運ぶようになり、素晴らしいビジネスが舞い込んでくるようになります。トイレの神様が見守っておられます。

「実感」で語ろう

『トップは「事実」ではなく「実感」で語れ』といわれます。会社を変えるためには、まずリーダーが「こうありたい」という夢を持たなければいけません。夢は「実感」と言い換えてもいいでしょう。その夢や「実感」を繰り返しているうちに、いつのまにか、「よい会社」に近づいていくのです。

事実をいくら並べても、それによって会社や未来を変えることはできません。

真実には二つあります。「事実」という真実と、「実感」という真実です。多くの人は「事実」だけが真実であると思っています。「事実」は真実の一部ですが、それは確かに正しいかもしれませんが、山あり谷のあった全ての過去を引きずっています。

これに対して「実感」という真実には、夢みtainな部分も含まれています。正確性



は欠けているかもしれませんが、人間が肌で感じること、心から思うことが「実感」です。そして「実感」から真実を導き出し、真実から逆に「事実」を作っていくというプロセスが、これからの経営に求められているのだと思います。

「夢や目標、ロマン」といった「実感」からスタートし、そこに具体的な数字を入れて、その数字を実現するというのが、経営そのものなのです。

また、経営者の仕事は、確信に満ちて揺るがぬことであると思います。社員に見通しを与え、明るい未来を指し示すことです。では、将来の見通しのたつ「未来の重さ」の大きい世界とは、どのような世界でしょうか。その世界では、目先のことよりも、未来のことをしっかりと考え、見据えた者のみが生き残る世界です。過去の実績や現在の損得勘定よりも未来を残すことに価値がある世界です。

実際に生き残ってきた企業は、あらゆる環境変化をビジネスチャンスとして活かすことに邁進する一方で、組織作りを怠らず、苦しい時でもそうやってしのいできたのです。そして、確信に満ちて揺るがず、見通しを与え続けた経営者だけが、その「未来の重さ」を社員の手にはずっしりと体感させることに成功し、可能にしてきたのです。まさに未来を残す仕事をしてきたのです。

(今月の言葉)

人は言葉に励まされ、癒される

報徳訓

父母の根元は天地の命令にあり
身体の根元は父母の生育にあり
子孫の相続は夫婦の丹精にあり
父母の富貴は祖先の勤功にあり
吾身の富貴は父母の積善にあり
子孫の富貴は自己の勤労にあり
身命の長養は衣食住の三つにあり
田畑山林は人民の勤耕にあり
今年の衣食は去年の産業にあり
年々歳々報徳を忘れるべからず

二宮尊徳（金次郎）

思草（しぐさ）

「思草」とは、生き方の哲学、心構えといったことを意味します

6つの精進

・ 魂は練磨され素晴らしい人生を送る法

1 だれにも負けない努力をする

だれにも負けない努力をすることが全ての基本になる。日々の地道な努力を、人後に落ちないくらい払うことができない者が。人生や運命を語ることはできない。だれにも負けない努力とは、その深さや長さにおいて、際限のない努力のことをいう。つまり、一心不乱に仕事に励み、一生懸命に生きているような姿のことである。それは、あたかも修験者が荒行をしているような様相でもある。そのような壮絶な打ち込みに



よってこそ、魂は次第に浄化されていくことである。

2 謙虚にして奢らず

世間では、たとえ傲慢不遜であっても、大胆不敵に生きていくような人が成功すると考えられている。例えば、人を押しつけてでも、自分だけがいい目を見たいという人が、成功するように思われている。決してそうではない。そのような人は、一時的に成功を収めたとしても、いつか没落をしていくものである。そうではなくて、内に燃えるような情熱を秘めてはいるが、あくまでも謙虚で誠実な人こそが、天佑もあり、大成をなす。これは、謙虚にして奢らずという姿勢を通じて、魂を浄化していくからである。

3 毎日の利己に対する反省

自分の行いが利己的であるか否かという反省を日々行わなければならない。自分だけがいいというような、利己的な考えに陥ってはいないか、常に自分の行為や心を点検し反省しなければならない。一日が終わるときに、「利己的な振る舞いはなかったか」「卑怯な振る舞いはなかったか」という反省を怠ってはならない。このことを通じて魂は磨かれていくことになる。

4 生きていることに感謝する

幸せを感じる心は、「足るを知る」心から生まれる。今日、自分が生かされていることに感謝しなければならない。人間は常に不足を感じ、そのため不平や不満が絶えない。この不平不満は欲望があるために生まれてくるが、あくなき欲望は留まることを

知らず、満足することを知らない。「足るを知る」ということに思いを馳せるべきである。「これだけで十分ではないか」という心によって、人間は幸せを感じることができない。幸せを感じる如果能够できれば、自分が生きているということ、生きている自分に感謝する心が生まれる。どんな些細なことに対しても感謝をする、このことが魂を浄化させる。

5 善行を積む

善行を積んできた家には必ずよい報いがある。これが因果応報ということである。結果には必ず原因がある。少しでも善行を積むことが必要である。善き行いを続けることによって、人格は次第に磨かれていく。「世のため人のために尽くす」。これこそ他利行である。

6 感性的な悩みを持たない

生きていくこと、肉体を持っていることから感性的なことで悩んだりすることがある。つまり、日常の瑣末なことで心を煩わし、心の病に陥らないことである。頭を悩まし、心を惑わすことは多くある。しかし、そんなことで心労をとられても、何も解決することはできない。これまでの精進につとめることである。そうすれば、必ず魂は磨かれ、心はたまり、運命は開かれていく。

聖人君子はいない、放っておけば「利己」になり、煩惱にまみれた人間であることをよく自覚している。ただ、それだけに「他利」であらうと懸命に努力をし、精進に努めなければならない。自分を深化させ、世



のため人のために尽くすために、さらに新しいことに取り組んでいかなければならない。

【「大きい」ことが「強い」ことではない】

2万9098社。これは総務省が調べた平成21年度の税理士事務所の件数です。ところが、平成18年度には2万9480社ありました。つまり、この3年間で382社も減ったことになります。これにより税理士事務所のニーズが減ったのか？と思われがちですが、それはまったく違います。

現に職員・スタッフの数は、13万640人(平成18年)から13万5922人(平成21年)まで増加しています。税理士事務所が382社も減り、職員が5282人も増えた。つまり、1事務所あたりの規模が大きくなったということです。実際に税理士法人は1700法人から2500法人まで増えています。M&Aなどを繰り返して、税理士法人化した巨大な事務所が目まぐるしい勢いで増えているのです。

では、数人の職員やパートだけで営んでいる従来の税理士事務所はこの先、成長することはできないのでしょうか。答えは、NOです！それどころか小さい事務所のほうが「強い」と思います。税理士事務所の規模を大きくして誰にメリットがあるのでしょうか？税理士事務所自体ですよ。とても顧問先を見ての行動とは思えません。

顧問先からすれば、担当者ではなく「できれば先生に来てもらいたい」というのが今も昔も変わらぬ本音です。開業当初、顧問先がほとんどいなくてしょっちゅうウチに来ていた先生。10年もすれば大先生になるんだなあ。と寂し

く思っていることでしょう。

また、事務所が大きくなると顧問先へのサービスが拡充すると言われますが、それを望む顧問先、それを必要とする顧問先がどれだけあるのでしょうか。それは、顧問先の心情を無視した事務所の都合に過ぎません。ただでさえ昔はアナログ(人対人)でやっていた作業がすべてパソコン(人対機械)で処理されてしまう時代です。

その上、事務所が大型化すれば、顧問先との関係がそれまで以上に希薄になることは自明の理です。顧問先は、困ったときに気軽に相談できる、すぐに駆けつけてくれる「隣の税理士」を望んでいます。小難しいシミュレーションや診断を望む企業は、上場を狙うか、次々に目新しい税理士法人を移り歩きます。

今こそ1社の顧問先、1人の個人事業主とのパイプを太くし、信頼関係をより深める時代だと私たちは確信しております。税理士法人コモンズはそんな税理士事務所を目指しています。

傘かしげ

皆さんはこの言葉をご存知でしょうか。道ですれ違うときに、傘がかからないよう互いの傘を外側に傾けることを指し、「江戸しぐさ」の一つとして、現代に伝えられてきた言葉です。

お互いが傘をかしげる光景を目にするだけで、ほっと心が和らぐような気がしませんか？相手を思いやる気持ちから生まれた「江戸しぐさ」。今こそ実践して、周囲に晴れやかな空気を運びましょう！

